

gone the mountain turn up the stone MORIYA YUKI

消えた山、現れた石 守屋友樹

2015年4月14日(火)～4月26日(日) 11:00～19:00

月曜休廊・金曜日のみ20:00まで・最終日のみ18:00まで

特別協賛：株式会社グランマール

Gallery P A R C **KGT+**

GRAND MARBLE



憧れの山はマッターホルン。標高は高く、遠くから眺めてもキリッとした線がすごく良い。

そんな山の写真を見ていると、ふと、山の部分をくり抜いてみたくなった。くり抜いてみると、ヘンテコな石の塊に見える。まじまじ見ていると、これはマッターホルンだけど、そうではない石の塊。それでいて、ペラペラしている。

場所や、遠近感、平面や立体から少し外れてしまった写真、見えていたものが少しズレて形容し難いものとなった。

別なものへと変容したイメージは、何処かへ行ってしまい、再び戻ってくる。残像のように寄せては返す山のイメージ。まるで自由に泳いでいるかのようだ。

押韻のように、写真もまた表面的なものから二次三次とイメージが増殖し広がりを与えていく。

僕は、写真を使って山を巡るイメージのあやとりを行う。どうしても良いけど、やっぱりマッターホルンに憧れる。

守屋友樹

2015年4月14日(火)～4月26日(日) 11:00～19:00月曜休廊・金曜日のみ20:00まで・最終日のみ18:00まで特別協賛：株式会社グランマール

2006年に日本大学藝術学部写真学科古典技法コースを卒業、2012年に京都造形芸術大学大学院を修了した守屋友樹(もりや・ゆうき／1987年・東京生まれ)は、写真をおもな表現媒体として、2014年の「KUAD Graduates Under 30 Selected」(京都造形芸術大学 ギャルリオーブ / 京都)、2015年の「TOKYO FRONTLINE PHOTO AWARD#4_NEW VISION#1(入選)」(G/P Gallery / 東京)などのグループ展に出品を重ね、これまでに精力的な活動を続けています。

その作品はおもに「写真の解体・反復・分岐」をコンセプトに、記録と記憶の関係によって起こる認識の差異を顕在化させるかのように構成され、引用・嘘・韻を踏む・編集(切り貼り)といった要素を含むイメージの世界を現出させています。そして守屋はそれらを媒介(境界)として、目の前の図像への認識をズラし、時に写真そのものをイメージ(図像・記憶・記録)から物質へと置き換え、鑑賞者の認識を揺さぶります。

…この繰り返し、寄せては返すイメージのあやとりは、祖父の墓を見ている時と似たものだった。墓は「石であり、祖父である」と指し示してはいるが、目の前にある事とそこでは見えないの実体の無さが同一にある事は、山や写真を見る事と重なって感じた。僕は、山での見え方を「石をたてる=写真にする」行為をもってあやとりしたいと思う。

山。遠くから眺めた時の三角のカタチを持った▲。近づいて目の前に広がる壁のような▲。分け入って先の雑木林に埋もれた空間としての▲。コンパスと地図によって見下ろす鳥瞰図としての▲。そこでは目に見える様々な有り様によって▲のイメージは常に(再)解体され、常に(再)構築されているといえます。

本展は、山にまつわる守屋友樹の個人的体験に端を発して着想されたもので、「写真にする/写真がある」ことにより、鑑賞者の認識(解体/構築)にあるズレを顕在化させ続けることを目論むものです。

守屋 友樹 / MORIYA YUKI

statement:

私は「写真の解体と反復」をコンセプトに作品制作を行っています。

記録と記憶の関係によって、認知の違いが起こる事に興味を持ち写真や映像を用いるようになりました。

引用、嘘、韻を踏む、それらの要素を含ませ、写真に対する捉え方に揺さぶりをかける。

引用、嘘、韻を踏む、それらの要素を含ませ、写真に対する捉え方に揺さぶりをかける。

CV:

1987年 東京都生まれ

2010年 日本大学藝術学部写真学科古典技法コース 卒業

2012年 京都造形芸術大学大学院 修士課程 修了

個展
2010 「Rolling stone」(Gallery i / 京都)
「tokyoblast」(Count Down Gallery / 東京)

グループ展

2015 ARTIST WORKSHOP @KCUA 『The Catalogue:川内 倫子ワークショップ成果発表展』(@KCUA)

- TOKYO FRONTLINE PHOTO AWARD#4_NEW VISION#1 (G/P Gallery / 東京)



2014 KUAD Graduates Under 30 Selected (京都造形芸術大学 ギャルリオーブ / 京都)

2013 「脈vol.3 | ととと」(gallery PARC / 京都)

2012 「脈vol.2 | ゆきてきゆ」(gallery PARC / 京都)

- 「京都造形芸術大学大学院修了制作展」(京都造形芸術大学)

- 「Art In Art _ 二次元と三次元のはざま」 ART ZONE / 京都)

2011 「文化庁メディア芸術祭 京都展 - 私のパラレルワールド」(京都)

- 「photograph - アーティストの見たもの」(STUDOP Y3 / 神戸)

- 「shift」(Gallery 門馬 / 北海道)

- 「脈」(gallery PARC / 京都)

- 「SPURT」(Galerie Aube / 京都)

- 「鈴鹿芳康ゼミ展」 (Gallery SUZUKI / 京都)

2010 「対向車線」 (ART ZONE / 京都)

Q & A:

*今回の展覧会はどういったものか
写真と山を巡ったイメージの往還

*写真とはどのようなものだと思うか
墓のようなもの(指し示すもの／示されるもの、に差異が必ずある。もしくは、関係が喪失している。)

*写真を「とる」ことについて
石をたてる行為に近い

*あなたにとって「作品」とは何を指すか?
石をたてたようなもの

*作品を「つくる」ことについて
墓石屋に近い

*世界
時間が存在する物事

*写真
宙づりになった時間

*「写真」に取り組むきっかけとはどのようなものですか
幼少期に経験した震災、その後に見たドキュメンタリー写真と違和感があったから

*人に「見せる」ことについて
見ているものに違和感を感じさせること

*これから行きたい場所は
広島、釧路(ロシアと交流のあった地域と古代から存在する湿原)

*今までで一番行って良かった場所は?
九州

展示作品:		
01. tent	2015	インクジェットプリント
02. c/g	2015	インクジェットプリント,結束バンド
03. turn up the mountain	2015	コピープリント
04. the girl	2014	コピープリント
05. paper stone	2014	インクジェットプリント
06. ishi	2015	インクジェットプリント
07. snow	2012	タイプCプリント
08. river	2012	タイプCプリント
09. the bush	2012	タイプCプリント
10. untitled_mountain #1	2015	インクジェットプリント
11. on the table	2014	インクジェットプリント
12. clothes_01	2013	タイプCプリント
13. in the clothes	2015	インクジェットプリント
14. clothes_02	2015	インクジェットプリント
15. /g	2012	タイプCプリント
16. sign_day time	2015	ネオンサイン
17. gone the stone	2015	インクジェットプリント
18. my room	2015	インクジェットプリント
19. untitled_c/c	2015	インクジェットプリント
20. untitled mountain #2	2015	インクジェットプリント
21. untitled mountain #3	2015	インクジェットプリント
22. untitled mountain #4	2015	インクジェットプリント



*今後の展開(希望)は
ロラン バルトの「エッフェル塔」を基に山の見方を探りたい

*何が美しいか / 何が醜いか
絶妙なバランス / 飾り立て過ぎること

*何がカッコいいか / 何がカッコわるいか
透明とノイズ / 不釣り合い

*何が気持ちいいか / 何が気持ち悪いか
風と音 / 閉塞感

*何を望んでいるか
開放感

*何を恐れているか
金縛り

*何を見たいか
目に見えない存在

*何をしたいか
現在の経験と過去の記憶をない混ぜにしたテキストを書きたい

